

人 86 「県民の警察官」に選ばれる

白砂 巖さん
五十九歳

新潟西警察署の黒崎幹部派出所の所長である白砂さんが、産経新聞社主催の第十六回「県民の警察官」に選ばれた(表彰式は十一月十一日に県民会館で行われる)。白砂さんは黒崎幹部派出所へ昨

年四月に赴任してきた。それまで交通係の第一線で二十年間、活躍してきた。昭和五十五年、

両津署交通課長のときに「高齢者交通安全の会」を結成し、交通事故を大幅に減少させたという。佐渡では若い人が外へ出ていくでしょう。年寄りが残って、特に事故に遭いやすいことから、地域の課題としてお年寄りを交通事故から守ることが大切と考え、やっ

たわけです。それでは黒崎町の場合、地域の課題はどんなことだろう

か。開発が進んで道路もよくなっていますし、幹線が町の中を通っています。ですから交通事故の問題が一番、地域住民の皆さんの日常生活に直結した問題とと思っています。

それからもう一つが青少年の非行防止。「町に青少年育成町民会議があり、いっしょに活動しています。すぐに効果が出るわけではありませんが、少しずつよくなって

いるのでは。実際、補導件数は減っています(県全体でも減少傾向にあります)」「県民の警察官」は民間唯一の警察官表彰制度ということで、特に地域に密着して日常生活を守るための地道な努力が評価されるよ



パトロールに出かける白砂さん。警部補。新潟西警察署黒崎幹部派出所所長として、黒崎幹部派出所、木場駐在所、山田駐在所の責任者を務めている。「これからも、県民の期待と信頼にこたえる活動を」

うだ。今回の表彰について「私ひとりでは選ばれるものではないと思っ

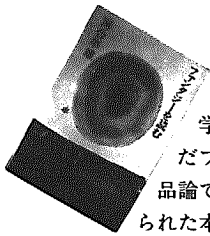
ないこともありました。さらに「私の勤務したそれぞれの署の皆さんの協力もあってのこと、それが形になって今回の表彰となったのでしよう。」さて、最近では「三K(キツイ、キタナイ、ケンケン)」と言われて警察官の志望者が非常に少なくなっている。以前に比べれば勤務環境や給与も改善されてきていますよ」と白砂さん。「私が警察官になった動機というのが、正義感というか、男としてやり甲斐のある仕事と思

●今月の表紙
秋といえは月並ですが、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋……というのがすぐに思い浮かびます。そこで、今月は少々安易かなとは思いましたが、スポーツ、芸術、読書で活動している皆さんを取りあげさせていただきます。もちろん、ほかにもいろいろありますが、それはまた別の機会で、ということでご容赦ください。表紙の記事を見て私もやってみようかな、という人がいればいいな、と思っています。

●来月号の表紙
寺地西団地ができ、済生会病院ができ、緒立で土地区画整理事業が進んでいます。新潟ふるさと村もオープンしました。北陸自動車道の延伸工事も行われています。さらに北部地区に土地区画整理事業が行われるという話もありです。そこで、大きく変わりゆく町の姿を特集として取りあげます。表紙では、それらに関係する皆さんのお話をうかがいたいと考えています。

ほんの一冊

「ファンタジーを読む」
河合隼雄著 (楡出版)



ユング派の心理学者の著者が選んだファンタジーの作品論である。取り上げられた本は「トムは真夜

中の庭で」「ゲド戦記」「床下の小人たち」など13冊で、児童文学者によらない異色のファンタジー論となっている。心理学者としてまた現役の心理療法家としての目が随所で光っており、作品を読んでも楽しくめし、すでに読んだものには新しい発見がある。意識と無意識の境界の夢の世界が、逃避と慰安のなかから私たちを次なる旅立ちへと導くさまが具体的に解説されている。ファンタジーが子供だましだと思ひの方、ぜひ一読を。(紹介者・中山住奈恵)

<人の動き>		
	9月末日現在	(前月比)
人口	23,727	(+27)
男	11,643	(+18)
女	12,084	(+9)
世帯	6,426	(+14)
9月1日～末日		
出生	28	転入 69
婚姻	4	転出 57
死亡	13	

